

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	一般社団法人はやぶさ福祉会 いるかの教室		
○保護者評価実施期間	令和 8年 1月 16日		～ 令和 8年 1月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 5名
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 16日		～ 令和8年 1月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 19日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・それぞれの特性や発達段階に合わせたプログラムの立案を行っている。	・支援の方法や活動内容について、職員同士で意見を出し合い、それらを反映している。 ・支援終了後には、活動や子どもの様子についての振り返りを行い、次への活動や支援内容に活かしている。	・引き続き、職員同士意見を出し合いながら、活動内容の充実化を図っていく。 ・申し送りの中身を充実させ、より良い支援へ繋げていく。
2	・その日の子どもの様子を、タブレット端末を用いて、保護者の方に伝えている。	・文面だけでなく、写真も添えて申し送りを行っている。 ・保護者の方に、子どもの様子が想像できるよう、分かりやすい文面を意識している。また、良い姿を伝えるだけでなく、課題をお伝えした上で、自宅での様子の聞き取りをしたり、困り事や相談に対して、自宅で出来る取り組み等の返答を行っている。	・引き続き、保護者の方に分かりやすい申し送りを心掛けていく。 ・悩みや困り事に対して適切な対応を行っていく。1人の職員の意見だけでなく、他の職員の意見も交えた返答を行っていく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・毎回同じ職員が支援に入るとは限らず、声かけや支援方法の統一化が図りにくい現状にある。	・その都度、現場に入らなかった職員へも申し送りを行っているが、実際の場面を見ていない状態での口頭や文面の申し送りとなってしまふ。そのため、個人の捉え方の違い等から、支援方法や声かけの統一が難しいと考える。	・活動の振り返りや反省の充実化を図る。 ・申し送りを伝える側・聞く側も、「伝えて終わる」「聞いて終わる」のではなく、伝え方や捉え方にずれ違い等が生じていないか、密なやりとりを意識する。
2			
3			